

第34期第12回研究会（第9～13・15回連続研究会）「検証ジャーナリズム 第4回 慰安婦報道検証報告書を読む」（ジャーナリズム研究・教育部会、メディア倫理法制研究部会合同企画）終わる

日 時：2015年2月9日（金）18：30～20：30

場 所：日本新聞協会 大会議室

問題提起者：林 香里（東京大学）

司 会 者：音 好宏（上智大学）

参 加 者：52名

記録執筆者：音 好宏

一連の朝日新聞の報道を巡る問題については、朝日新聞自身が、既存の「報道と人権委員会」や新設の第3者委員会を設置し、その問題点を検証。その報告書を、2014年末から相次いで公表した。ジャーナリズム研究・教育部会とメディア倫理法制部会との合同企画として、一連の朝日新聞を巡る問題にフォーカスして、日本のジャーナリズムの問題を検証する連続研究会「検証ジャーナリズム」では、その第2弾として、それらの報告書の内容や、その作成にあたり、何が議論され、また、何が議論されてこなかったのかを委員会の当事者をスピーカーに議論することとした。

その第1回として、「慰安婦報道報告書」を取り上げ、慰安婦報道検証第3者委員会のメンバーを務められた林香里会員に報告をいただいた。

研究会では、まず林会員から、第3者委員会での議論の内容やその際の様子などを、お話しいただける範囲で、率直にご報告いただいた。特に林会員は、第3者委員会の議論と並行して、海外の有力新聞がどのように「慰安婦」問題を報道しているかについて調査・分析を行い、レポートにまとめている。研究会では、このレポートの内容、及び、第3者委員会でのこのレポートの受け止め方などについても報告があった。

参加者からは、報告書の内容や第3者委員会のあり方といった点のみならず、慰安婦報道に関する女性の問題としての扱いの希薄さや、こういった事案に対するジャーナリズム研究者の役割といった問題など、様々な視点から、活発な議論が繰り広げられた。